2005年宣言の実現
「2015年トップ10」に向けて

ロードマップの作成

2015 ← 2012 ← 2009

「JFA2005年宣言」

2015年の約束
2050年の約束

2015年に向けて、
「約束」をどのように実現していくのか

現実の体制からではなく、目指す姿から逆算する。

↓

日本サッカー協会全体の考え方、方向性として**共有**

→ 体制、予算等へ

さまざまな取り組みを総合的に重ねていく中で、
重点、優先事項を考えないと、
大きな目標に近づくことができない。

「2015年トップ10」に向けて

すそ野を広げ、
育成の土台を堅固にし、
総合力を高めることで、
頂上を高くする。

2015年、日本をこういう姿にする

1. 競技環境：リーグ戦文化の定着
2. 拠点整備：様々な活動の核として
3. U-12年代の重要性
4. キッズ年代の充実
5. トレーニング環境：指導者の質

主要な軸

キッズ、キッズエリート

U-12に対する取り組み

JFAアカデミー

指導者養成

ゲーム環境

トレセン

Jリーグ、Jクラブとの連携

その他

キッズ、キッズエリート（~U-10）

育成のためのより良い準備という位置づけで、U-12へつなげていく。

小さい頃からからだを動かしてサッカー、スポーツに親しみ、成長に適した刺激を受けることで、生涯にわたりスポーツを愛する人を増やすとともに、心身ともに健康でコーディネーションに優れた子ども達を日本全国で増やす。

ゴールデンエイジの前の準備として、左右の足でボールを自由自在に扱うことができるようになった状態で、U-12以降の育成をより充実させることができるようにする。

今後の主要な取り組み

サッカー外へのアプローチの強化 （教育機関等）

キッズプログラム
チャレンジゲーム 「めざせクラッキ」等

キッズから4種へのスムースな移行

よい準備をしてU-12に進めるように、よりよい環境を

U-12に対する取り組み

サッカー選手としての将来の成長に必要なベースとしての
基本要素をこの年代で高いレベルで獲得しておく。

U-13、14前の重要な準備期間
U-12では多くの子ども達に大きな可能性があるため、
より多くの選手に、日常的に良い働きかけをする必要がある

↓

U-12指導の向上

**質の高い地区レベルのトレセン活動を、全国で戦略的に
充実させる**

U-12に適したトレーニング環境、試合環境の改善

今後の主要な取り組み

「モデル地区トレセン」の考え方

全国で、生活圏内日常的なトレセン的活動（週1～2回）

A級U-12取得者の中から、認定して指導者を出していく

「地区トレセン」の内容、質、方向性に直接JFAが働きかけ

「モデル地区トレセン」数目標

2008年	5
2009年	10
2012年	50
2015年	150
⬇	
最終形	300

事例1：ドイツ
全国121箇所⇒395箇所
（70クラブに1拠点）

事例2：フランス
全国に650のセクター

参考：4種登録チーム数　現在 8511
300で28クラブに1箇所

JFAアカデミー

JFAユース育成のコンセプト発信源であり、モデルとしての役割

JFAアカデミー福島の充実、成果

発信機能の重視：　コンセプトをより効果的に発信し浸透させるために、計画的に増やしていくことが必須（地域拠点としての機能）

コンセプトをより効果的に発信し浸透させるために、増やしていくことが必須

コンセプトへの賛同・共有は大前提

条件の明確化

Jクラブとの連携

その他のさまざまなケースの検討、推進

2009年度　　ロジング形式　＋1

通い型モデルケース検討

⬇

2015年までに、全国でロジング形式5ヶ所

通い型アカデミーを30ヶ所

拡大・展開に伴う質のコントロール

人材が成功の鍵

指導者養成

究極は指導者の質があらゆる問題に関わる

日常の指導の質を向上させるために、指導者のさらなる質・量の向上

量向上のための講習拡大に伴う、質のコントロール

指導者は子ども達の未来に触れている！

現在ある各コースに関し

・養成目標の再確認

・コース数の増加・発展の必要性、方法の検討

C・D・キッズリーダー　　コース増

B級　　現12コース　⇒　目標2015年30コース　地域、Jクラブ展開

A・S級　　量よりも質を重視

A級U-12　U-12年代の指導の充実、モデル地区トレセン拡大のために、
コース増（アカデミー増とのリンクで）

指導者の質の向上の軸として、再教育の充実：

リフレッシュ研修のさらなる充実、受講しやすさ向上

質の向上　⇒　指導者も世界基準へ

海外で活躍する指導者を増やす　目標15カ国

経験を日本へフィードバック

ゲーム環境

ゲームが選手を育てる

日常のゲーム環境の質が育成に大きく影響

国内の日常が、各年代の育成にふさわしい、ハイプレッシャーのゲーム環境になっているか。

刹那的でなく長期的にトレーニング成果をあげていくためのゲーム環境になっているか。

たくましい選手を育成していくためのゲーム環境になっているか。

リーグ戦化

目標

- 年間20試合程度
- 長期（8～9ヶ月）にわたる継続的な試合機会の経験
- 能力別：　全ての選手に能力に応じた拮抗した機会を
- 複数チームの参加

↓ 実現のために

年間カレンダーの整理

効果的に必要な試合の配置

学年、種別の連続性をもたせる

各年齢の育成にふさわしいゲーム環境のガイドライン

トレセン

日本の育成の軸・発信源として、トレセン活動のさらなる充実

⇒　さまざまなトライ

ナショナルトレセン：　継続的活動

47FA：　一貫指導体制の確立、充実　⇒　国体少年の部U-16化

↑FA内各レベルのトレセン活動を通じて

U-17：地域キャンプ　⇒　地域対抗戦

Jリーグ、Jクラブとの連携

JFAとJリーグ共同で日本の育成環境の改善

あらゆる施策の実現のために、エリート育成機関、ハード・人材保有機関としてのJクラブとの有効な連携、コンセプトの共有

Jクラブとの連携

モデル地区トレセン
JFAアカデミー　コンセプトの共有
指導者養成
その他

Jリーグとの連携

U-13、U-15リーグの共同展開
JFAとJリーグで、日本の育成環境を整えるための共同事業の展開

2003年　エリートプログラム、キッズプログラム開始

2006年　JFAアカデミー福島開校

2007年　ロードマップの作成・共有　A級U-12開講　2003年エリートU-17へ
全カテゴリー世界大会出場

2008年　B級受講者枠　B級Jクラブ展開モデルケース　北京五輪
モデル地区トレセン5　アカデミー2校目開校準備

2009年　アカデミー2校目開校　A級U-12 2コースへ　U-20/17ワールドカップ
B級15コース
モデル地区トレセン10
リーグ戦化実施　ワールドカップ南ア
U-20/17ワールドカップ

2012年　モデル地区トレセン50　ロンドン五輪
リーグ戦化完成

ワールドカップ
U-20/17ワールドカップ

2015年　モデル地区トレセン150
アカデミー　ロジング形式30ヶ所、通い型5ヶ所
B級30コース

エリートプログラム1期生　26歳
JFAアカデミー福島1期生　U-23
キッズ2003年U-10　⇒U-23
U-6　⇒ U-18

⋮　モデル地区トレセン300